



リポーター

石田美由紀さん(市内大学在学)

市民の皆さんにリポーターになっていただき、市内の施設や市の事業をご紹介します。



昨年はJC連も結成し、阿波踊り大会を運営するだけでなく、参加することでさらに盛り上げました

まちと人、人と人とのつながりを改めて実感できるように私は市外から狭山市の大学に通っています。昨夏、友人に誘われて入間川七夕まつりに行きました。豪華な竹飾りの下を人々が行き交い、私の地元のお祭とはちょっと違う雰囲気でした。中でも圧巻だったのは、夜の阿波踊り大会。沿道に大勢の人が集まり、踊り手に盛んに拍手を贈って、すごい熱気でした。この阿波踊りは入間川七夕まつりの「大トリ」で、初めて見た私も見る者と踊り手の一体感に感動しました。この盛況な阿波踊り大会、狭山青年会議所が15年前に初めて企画したのだそうです。それまで「静の祭」だった

入間川七夕まつりを、動の祭に革新し、見るだけでなく参加できるようにして、市民みんなのふるさとの思い出深い七夕まつりにしようという思いで始まったのです。その思いがとて胸に響き、今年もぜひ見に行きたいと思いました。さて、これほど多くの人に親しまれている阿波踊り大会を運営している狭山青年会議所とは、どんな組織でしょうか。今年の理事長・照沼拓さんに伺いました。

現在、全国の都市に750の青年会議所(JC)があり、20歳から40歳まで、さまざまな職業を持つ、4万6千名の会員がいます。その中で、狭山青年会議所では、64名の会員が、明るい豊かなまちをつくるという理念を持ち、地元・狭山市を活性化し、たくさんの方が魅力が溢れるまちにしたいと活動しています。その一端が、入間川の河原で熱気球を飛ばすなど、子ども達がこのまちの良さを肌で感じ、市を誇りに思えるような催しです。そして活動を通じて市の伝統・文化や、まちと人、人と人とのつながりに改めて気づき、狭山市に住ん



いろいろな祭会場で見かける、この法被がJCメンバーの目印です

で良かった。自分も何らかの役割を担い、地域で生きている社会の一員だ」と思えるような、心の根っこを持つ住民が多くなることを目指しているのです。今年、市制施行50周年、その記念イベントも、市や記念事業の検討委員会と一緒に企画中です。さらに4月には、子ども達の今を考えるきっかけともなる青少年のための講演会を市民会館で開催します。だれでも参加できるそうなので、子ども達の将来に考えのある人はぜひ行ってみてはいかがでしょうか。

また、JCではイベントを開催するだけでなく、自分たちが住んでいるまちのことを知らなければ、その魅力を語れない」と、市の動向や魅力あるまちづくりの手法、コミュニケーション能力などの研修会を積極的に開催し、仕事と両立して学んでいます。

私とさほど年齢の変わらない人々が、狭山が好きだから、まちのために何かできることはないか」と一生懸命に考えている姿を見て、衝撃を受けました。私も地元のことをもっと知り、このまちで生きていると実感できるような何かを探してみたいです。

オピニオン^声

皆さんの「声」をお寄せください。

市役所脇の歩道に、きれいな花が植えられています。その花を見た市民から「市で植えているのですか。素敵ですね」という声が届きました。実はこれは個人が植え、手入れをしてくださっているのです。5年間、一人で花の手入れをしているその方は、どんな思いで続けてくださっているのでしょうか。

自分の身の回りをきちんとするのと同じように まちをきれいにしたいと思います

5年前、私が福祉施設に寄附をした際、育てた草花を1,000株もお礼にいただきました。たくさんあったので市の玄関である市役所脇に植えたいと思い、許可を得て植えて以来、手入れを続けています。

作業中、よく「市役所の方ですか」と聞かれます。「市が管理しているなら、ごみを捨てたってきれいにしてくれるだろう」と考えている人もいるのかもしれませんが。花の根元に空き缶や犬のフンなどが捨てられていることもあり、作業道具にごみ袋は欠かせません。道路

の両側100mほどの歩道の草取りや肥料・水やりには、丸々半日かかります。撒いた水が一瞬で乾いてしまう暑い日やバケツに汲んだ水が凍る寒い日も毎週通っているの、いつの間にか通る人々と顔なじみになって会話が弾んだり、「いつもありがとうございます。この花を見ながら散歩をするのが日課なんです」とお礼を言っていていただくこともあります。そうした対話がとてもうれしく、作業中の楽しみです。

私は、自分が大層なことをしているとは思いません。身の回りをきちんとするのと同じような感覚で、まちのことを考えているだけです。花の手入れだけでなく、毎朝、子ども達が安全に道を渡れるように、旗を持って横断歩道に立ったり、福祉施設に車いすを贈ったり...そんなことを、10年以上続けています。すべて自分にできる範囲で、行動しているだけです。これからも、無理せず気負わず「自然体でできることは何か」と考えながら、可能な限り続けたいと思います。

長倉芳昭さん(上奥富在住・57歳)



AET corner

Myron Megaloconomos・東中学校勤務

Happy New Year everyone! It is hard to believe another year has gone by!

During the winter vacation, I went to Brisbane, Australia to visit my family and friends. It was great to see everyone again. On Christmas day, I went to my elder Brother's house, and had Christmas lunch with all of the family. We ate turkey, chicken, ham, salad, rice and vegetables. All of the family helped prepare the big lunch. After lunch, I went swimming with my niece and nephew in my Brother's pool. It was a good change from the cold Christmas in Japan. Have you ever experienced a summer Christmas? If you ever get the chance, I recommend going to Australia and spending Christmas with your family, by the beach and cooking a barbeque, you'll love it! Take care in the New Year.

年が明けました。1年が経つのは早いですね。

冬休み、私はオーストラリアのブリスベンへ、家族や友だちに会いに行きました。知人に再会できたことはとてもうれしかったです。クリスマスには兄の家に行き、家族みんなとクリスマスの食事、七面鳥、鶏、ハム、サラダ、米や野菜などの料理を食べました。日本の寒いクリスマスとは違い、よい気分転換になりました。皆さんは暖かいクリスマスを経験したことがありますか。もし機会があったら、オーストラリアに行って、家族と浜辺でバーベキューをして楽しむクリスマスをお勧めします。きっと気に入りますよ。今年1年が良い年になりますように。

<ミロン・メガロコノモス>(英文の要約)

●20年前から続く「音読群読発表会」 全校をあげての行事です



約20年前から、声を出して詩や物語、説明文などの作品を読み上げる「音読群読発表会」を続けています。この発表会のために、国語の時間などを使い、学級ごとに約3週間前から練習を重ねます。発表会では、1年生から6年生までが力を合わせて取り組み、各学級・学年間でお互いを讃えあい、交流を深めます。入間川小学校の子ども達は、この音読・群読をとおして日本語の持つ美しいリズムに気づき、作品を豊かに表現すること、集団で音読する楽しさを覚えるのです。

学校自慢

入間川小学校